



2026年10月15日

一般財団法人JR東日本文化創造財団

MoN Takanawa: The Museum of Narratives

手塚治虫の不朽の名作を新たな表現形態へ昇華させた
『MANGALOGUE（マンガログ）：火の鳥』が、
「グッドデザイン・ベスト100」「グッドフォーカス賞[新ビジネスデザイン]」および「2026 66th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」
デザイン部門にて最高賞「総務大臣賞／ACCグランプリ」を受賞！



この度、「MoN Takanawa: The Museum of Narratives（モン タカナワ: ザ ミュージアム オブ ナラティブズ）」（東京都港区、運営：一般財団法人JR東日本文化創造財団）が開館記念公演として2026年4月に新規開発・発表した『MANGALOGUE（マンガログ）：火の鳥』が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2026年度グッドデザイン賞」において「グッドデザイン・ベスト100」および「グッドフォーカス賞[新ビジネスデザイン]」を受賞しました。

さらに、国内最大級のクリエイティブアワードである「2026 66th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」においても、3部門にて部門最高賞「総務大臣賞／ACCグランプリ」を獲得しました。

マンガログは、普段は一人で読むマンガをみんなで読むという、MoNから生まれた新しいパフォーミングアーツのフォーマットです。日本の文化を世界に届ける活動として、これからも進化する予定です。今後ともご期待ください。

■2026年度グッドデザイン賞 受賞概要

<受賞部門>

- ・2026年度グッドデザイン・ベスト100
- ・2026年度グッドフォーカス賞 [新ビジネスデザイン]

2026年度グッドデザイン賞において「グッドデザイン・ベスト100」に選出され、さらに特別賞の1つであるグッドフォーカス賞 [新ビジネスデザイン]（経済産業省 大臣官房 商務・サービス審議官賞）を受賞しました。



<グッドデザイン賞審査委員による評価コメント>

日本が誇るマンガ文化にテクノロジーと演劇的な要素を掛け合わせることで、人々に新しいインスピレーションを与える新たなフォーマットへ挑戦し、それを実現させた点が高く評価された。ロボットアームとリアルな演者との掛け合いや、マンガならではの見せ方を活かした演出など、これまでにないコンテンツとしての完成度の高さが際立っており、新しいビジネスのアイデアとしても興味深いプロジェクトとして評価を集めた。本来ライブコンテンツにすることが難しいマンガという題材を、複数の出演者を起用しても成立するような仕組みへと巧みに落とし込んでいる点にも、独自の工夫が光る。そうしたデザインの細部も、ユニークな新しい表現の形として高く評価された。すでに2万人もの観客を動員したという実績も、訴求力を裏づけるものとして評価の対象となった。今後、他のマンガコンテンツを用いた展開など、さらなる広がり大きな期待を寄せたい。

<紹介ページ>

<https://www.g-mark.org/gallery/winners/39699?years=2026&awardCodes=BEST100>

<グッドデザイン賞とは>

グッドデザイン賞は、1957年創設の、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨のしくみです。製品、建築、サービス、システム、地域の取り組みなど、有形無形を問わず、さまざまなものごとを対象としています。受賞のシンボル「Gマーク」は、よいデザインを社会に広げるマークとして親しまれています。2026年度は第70回の節目にあたります。

■2026 66th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS 受賞概要

<受賞部門>

- ・クリエイティブイノベーション部門：総務大臣賞／ACCグランプリ
- ・ブランデッド・コミュニケーション部門Cカテゴリー（デジタルクラフト）：総務大臣賞／ACCグランプリ
- ・デザイン部門：総務大臣賞／ACCグランプリ

<クリエイティブイノベーション部門 小池藍審査委員長 審査講評>

AIと人間をめぐるニュースが日々あふれ、テクノロジーが暮らしを豊かにする可能性と脅かす可能性について議論が尽きません。過渡期ゆえか、テクノロジーを活用した新規事業の応募は少ない印象でした。受賞作の多くは社会的意義の大きなプロジェクトで、高く評価に値します。一方、テクノロジーと人間の共存は大きな課題です。グランプリ「マンガログ」は、その一つの解、しかも日本らしい解だと思います。AI開発で米中が先行するなか、日本がいかに関与を示すかは国家的な課題です。本作は、日本が誇るマンガ・アニメIPを武器に、世界へ羽ばたく可能性を秘めていると期待しています。

<紹介ページ>

https://www.acc-awards.com/festival/2026fes_result/

<ACC TOKYO CREATIVITY AWARDSとは>

テレビ、ラジオCMの質的向上を目的に、1961年より開催されてきた広告賞「ACC CM FESTIVAL」を前身とし、2017年よりその枠を大きく広げ、あらゆる領域におけるクリエイティブを対象としたアワードにリニューアルしました。名実ともに、日本最大級のアワードとして広く認知されており、総務大臣賞／ACCグランプリは、クリエイティブ業界で活躍する関係者の大きな目標となっています。

■『MANGALOGUE（マンガログ）：火の鳥』について

「MANGALOGUE（マンガログ）：火の鳥」は、手塚治虫の代表作『火の鳥』を、先進的なクリエイティブとデザインアプローチによって再定義・拡張したプロジェクトです。

【開催期間】2026年4月22日（水）～5月16日（土）

【会場】MoN Takanawa: The Museum of Narratives Box1000

【主催】MoN Takanawa: The Museum of Narratives／TBS

【企画制作】MoN Takanawa: The Museum of Narratives／TBS／Bascule Inc.

【原作】手塚治虫『火の鳥 未来編』※手塚治虫／手塚プロダクションの「塚」について、正しい表記は旧字



■伝統からマンガ、音楽、宇宙まで。文化の実験的ミュージアム

MoN Takanawa: The Museum of Narrativesについて

The Museum of Narratives の頭文字「MoN」には、新たな自分と出会う新しい世界への「門」、そして、未来を考え創造するための「問(問い)」の2つの意味が込められています。



Photo: Yasuyuki TAKAKI

公式ウェブサイト：<https://montakanawa.jp/>

公式Instagram：<https://www.instagram.com/montakanawa/> (@montakanawa)

今後の詳細情報は、公式ウェブサイトおよびSNSを通じて順次発信します。

名称	MoN Takanawa: The Museum of Narratives
事業者	一般財団法人JR東日本文化創造財団
敷地面積	8,103.21 m ²
延床面積	24,313.31 m ²
高さ	44.19 m
階数	地上6階・地下3階
主用途	展示場、ホール、飲食施設 等
設計者・デザイナー	品川開発プロジェクト（第Ⅰ期）設計共同企業体 外装デザイナーアーキテクト／隈研吾建築都市設計事務所

■一般財団法人JR東日本文化創造財団について

当財団は「MoN Takanawa: The Museum of Narratives」の企画運営を通して、日本の文化創造に貢献するための組織として2022年4月1日に設立されました。「100年先へ文化をつなぐ」をミッションに、これまで育まれてきた伝統や文化に現代の価値観やテクノロジーを融合させ、より広い時間軸と国内外のパートナーとともに国際的な共創、交流、発信を行っていきます。

※「MoN」、「MoN Takanawa」並びに「MoN Takanawa: The Museum of Narratives」は、一般財団法人JR東日本文化創造財団の登録商標です。

<本件に関する問い合わせ先>

MoN Takanawa: The Museum of Narratives PR事務局

担当：高田玲奈（080-7235-8296）／高治唯花（080-7452-5113）

MAIL：press@montakanawa.jp